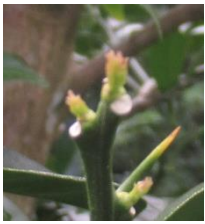







# ゆず栽培技術情報 9月号

## ★ポイント★

- ・ 収穫に向けて、果実の肥大を促進させるため、秋肥を施用しましょう。
- ・ 黒点病の発生が見られる場合は、防除を実施しましょう。

## 1 令和5年の生育概況

発芽日	開花始日	満開日	落弁期	生理落果期	肥大期	着色期
						
4月 第3半旬 (4/14頃)	5月 第5半旬 (5/22頃)	6月 第1半旬 (6/1頃)	6月 第2半旬 (6/8頃)	6月 第5半旬～ (6/20頃～)	7月下旬頃 ～	

※調査園地：陸前高田市米崎町

- ・ 6～7月に見られていた生理落果が落ち着き、8月以降、果実肥大に入りました。
- ・ 夏枝の伸長が見られています。

夏枝伸長部



9月上旬の樹の様子



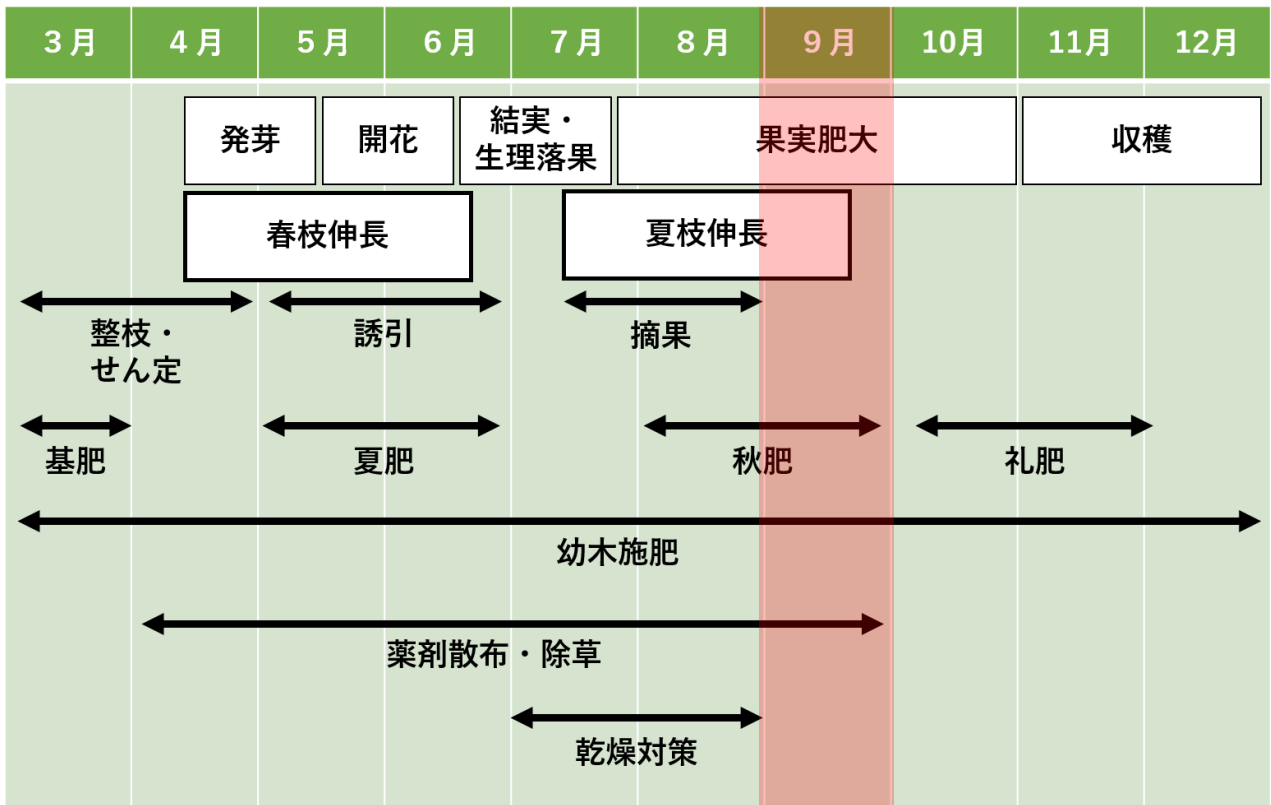
伸長中の夏枝 (8/22)

夏枝は7月から8月頃に伸長する新梢です。夏枝は、高温の影響で節間が長くなり、葉も大きくなります。

樹勢の強い樹では、夏枝が多く発生します。

成木において、日光を妨げる原因となる場合は、冬期の剪定時に処理します。

## 2 9月の栽培管理について



### (1) 秋肥の施用について



秋肥の施用により、果実肥大を促進！

- ・ 秋肥は、果実の肥大を促進させる目的で施用します。
- ・ 特に、着果量の多い樹では、養分が消耗されやすいので、重点的に施用します。

### ア 成木（樹齢7年以上）の施肥

※9月中の散布が難しい場合は、秋肥は施用せず10～11月の礼肥の散布を重点的に行いましょう。

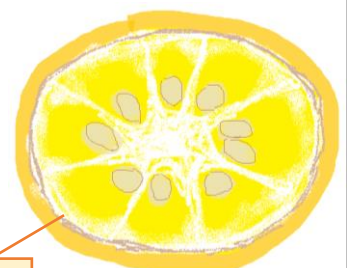
時期	成分量(kg/10a)			種類別施肥量(参考)		
	窒素(N)	リン酸(P)	カリ(K)	アップル1号 (N:P:K=17:7:13)	低カリ有機入 果樹肥料 (N:P:K=10:8:5)	発酵鶏ふん (N:P:K=2:6:3)
8～9月 (秋肥)	6	4	6	1樹当たり300g (10a当たり35kg)	1樹当たり540g (10a当たり60kg)	1樹当たり3kg (10a当たり300kg)

※ 1樹当たり施肥量は、111本/10a(3m×3m)を基に算出。

窒素施用量が多すぎると、**浮皮**の発生が見られる場合があります。  
過剰施肥に注意しましょう。

浮皮とは…

窒素の過剰吸収や、高温により、かんきつ類の果肉と皮が分離し、皮がぶかぶかとなる生理障害を指します。



果肉と皮の間に隙間ができる

幼木～若木（樹齢1～6年）の施肥

時期	樹齢	成分量(kg/10a)			種類別施肥量（参考）			
					アップル1号 (N:P:K=17:7:13)		発酵鶏ふん (N:P:K=2:6:3)	
		窒素 (N)	リン酸 (P)	カリ (K)	1樹当たり 施肥量(g)	10a当たり 施肥量(kg)	1樹当たり 施肥量(g)	10a当たり 施肥量(kg)
毎月 (3月 ～ 10月)	1	1.5	1.2	0.9	80	9	680	75
	2	1.6	1.3	1.0	90	10	730	80
	3	1.6	1.3	1.0	90	10	730	80
	4	2.3	1.8	1.4	120	13	1,000	110
	5	3.0	2.4	1.8	160	18	1,350	150
	6	3.0	2.4	1.8	160	18	1,350	150

☆施肥の方法

株元の根が伸長する部分に、肥料を散布します。

降雨が少なく、乾燥気味の場合は、かん水を行うことで、肥効が良くなります！



肥料散布場所

## (2) 黒点病の防除について



黒点病は果実品質の低下につながる重要な病害です

- ・ 葉、緑枝、果実に黒い点を生じる病害です。
- ・ 初期感染（6～7月）では、黒点が大きく、黒点の周囲に白色の縁取りを生じます。
- ・ 後期感染（9～10月）では、黒点が小型で立体感がなく周囲に縁取りを生じません。
- ・ 果皮を加工する際は、病斑部を取り除く必要があるため、等級が落ちます。

### 《防除方法》

- ・ 病原菌は樹上の枯れ枝で増殖し、雨水等で周辺の果実や葉に伝染します。
- ・ 常に枯れ枝の剪除を行い、枯れ枝を圃場内から持ち出し処分することが重要です。
- ・ 多発時には、ストロビードライフロアブル（希釈倍率：3,000倍、収穫14日前まで、使用回数：3回以内）を全体に散布します。



初期感染の果実



後期感染の果実

## (3) 台風対策について

### 《事前対策》

- ・ 防風ネットを設置している場合は、ネットの張りやワイヤーの緩み等を点検します。
- ・ 幼木は、風で主幹が折れないよう、支柱等に固定します。
- ・ 強風により、果実にトゲが刺さり傷果となる場合があるので、徒長枝の長大なトゲや果実周辺のトゲはせん除しておきます。

### 《事後対策》

- ・ 強風により枝折れした場合は、健全部まで切り返します。また、枝が裂けた場合は、太いほうの枝を残して細い枝を切り、切り口及び傷口に癒合剤を塗布します。
- ・ 樹が倒伏した場合は、樹を起こして支柱に固定し、根元に土を詰めて十分灌水します。
- ・ 台風後は、黒点病の発生が見られる場合は、黒点病の防除を行います。

## 【秋の農作業安全月間実施中(9/15～11/15)】 農作業 慣れと油断が 事故のもと

### 【資料利用上の注意】

この資料は、令和5年9月6日時点の農薬登録情報に基づいて作成しています。  
農薬は、使用前にラベルの表示事項を必ず確認の上、使用基準を遵守し、農薬使用者が責任を持って使用してください。また、農薬の飛散防止対策に努めてください。